

環境報告書

2011



T-Tech
Beyond Comfort

ティ・エステック株式会社

目 次

■ TOPメッセージ	2
■ 環境方針 / 環境マネジメントシステム推進体制	3
■ 環境活動取組みの考え方	4
■ ISO14001認証取得状況	5
■ 年次目標と実績（国内）	6
■ マテリアルフロー / 環境会計	7
■ 環境マネジメント	8
■ 環境リスクマネジメント	10
■ 東日本大震災関連（夏季節電対応）	11
■ 2010年度環境保全活動実績	
1) 省エネルギー事例	12
2) 資源の削減事例	15
3) 廃棄物削減事例	16
4) 購買（取引先）	17
5) その他（国内事業所・海外関係会社）	18
■ 社会貢献活動（国内事業所・海外関係会社）	21
■ テイ・エス テック及び関係会社の環境データ	23
■ 2010年度国内関係会社別環境データ	24
■ 2010年度海外関係会社別環境データ	25
■ 会社概要	28

報告書の対象範囲

期 間：2010年度（2010年4月～2011年3月）

※一部の活動については上記期間対象外のものも記載しております。

組 織：国内については、全事業所（5事業所）、国内生産子会社（3社）を報告対象としております。また、海外については、米州、中国、アジア、欧州の生産・開発子会社21法人及び関連会社1社を対象としております。なお、当環境報告書は、テイ・エス テック独自の基準によって編集いたしました。



このたびの東日本大震災により被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

世界的規模で直面している地球環境問題は、深刻さを増しており、低炭素社会の実現に加え、生物多様性の保全などへの取組みは、企業経営に不可欠となっております。

世界12ヶ国の各国、各地域で事業展開をおこなっている当グループにとって、環境方針に掲げております「無限の進化と継続的な改善に挑戦し、環境にやさしい喜ばれる企業」になるためには、環境影響を的確に把握し、管理し、改善していくことが必要であります。そして、その取組みに対し、当グループの社員一人ひとりが継続的に取組み、確実に成果をあげていくことが不可欠と考えております。

地球環境問題への取組みは企業としての社会的責任であります。今後も、テイ・エス テックグループ一丸となって、環境にやさしい「喜ばれる企業」となるため、積極的に取り組んでまいります。

皆様方には本報告書を是非ご一読を賜り、忌憚のないご意見やご感想をお聞かせ願えれば幸いに存じます。

テイ・エス テック株式会社
代表取締役社長

吉明地利雄

環境方針

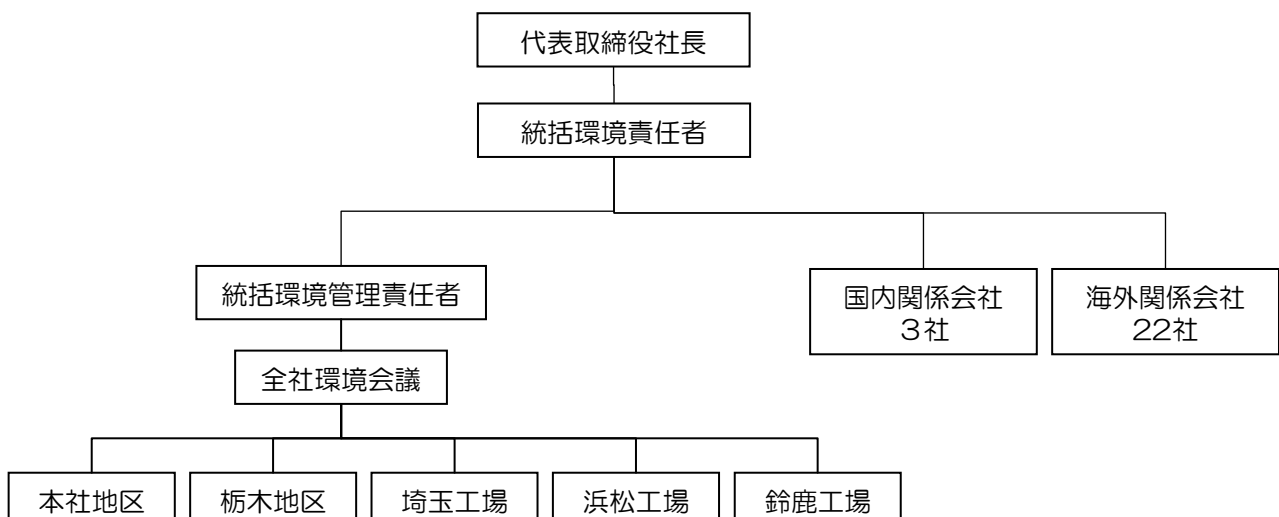
環境基本方針

わたしたちは常に地球環境に配慮し、持続可能な資源循環型社会を目指し、生物を汚染から守るため、法の遵守の基に製造業として無限の進化と継続的な改善に挑戦し、環境にやさしい喜ばれる企業を目指す。

行動指針

1. 商品の開発、生産、販売、廃棄の各段階においてライフサイクルアセスメント（LCA）の視点に立って廃棄物、汚染物質の最小化と適切な処理を図る。
2. 商品の開発、生産、及びすべての事業活動で材料を有効に活用し、そのリサイクルと、資源、エネルギーの効率的利用に努める。
3. 社会の一員として人の健康の維持と地球環境の保全、及び地域社会との共生に努力すべく、積極的に行動する。
4. 環境保全活動に対し、テイ・エス テックグループ全体で積極的に取り組む。
5. 海外事業活動において、当該国の環境基準の遵守はもとより、環境対策技術の海外移転を積極的に推進する。

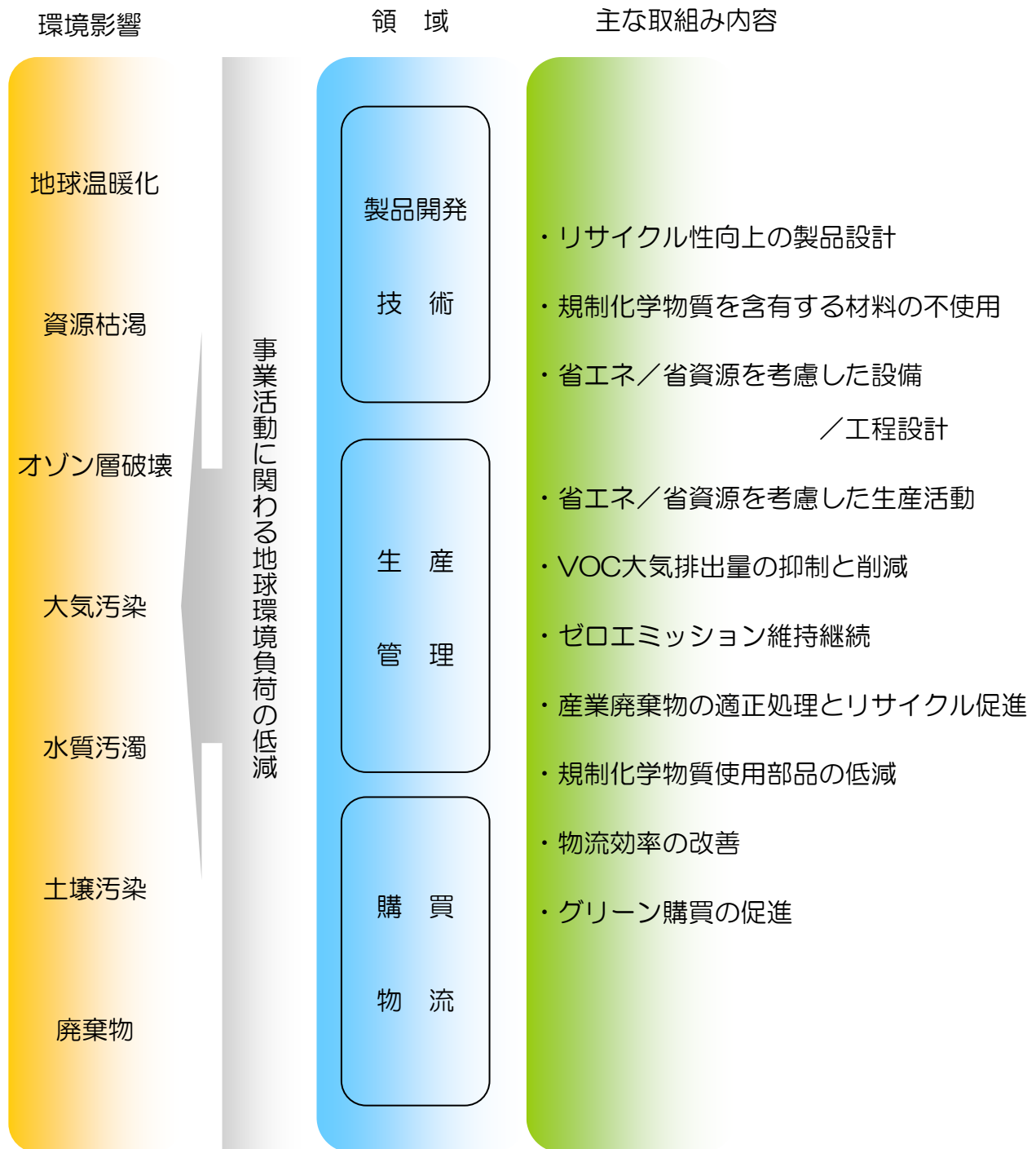
環境マネジメントシステム推進体制図



環境活動取組みの考え方

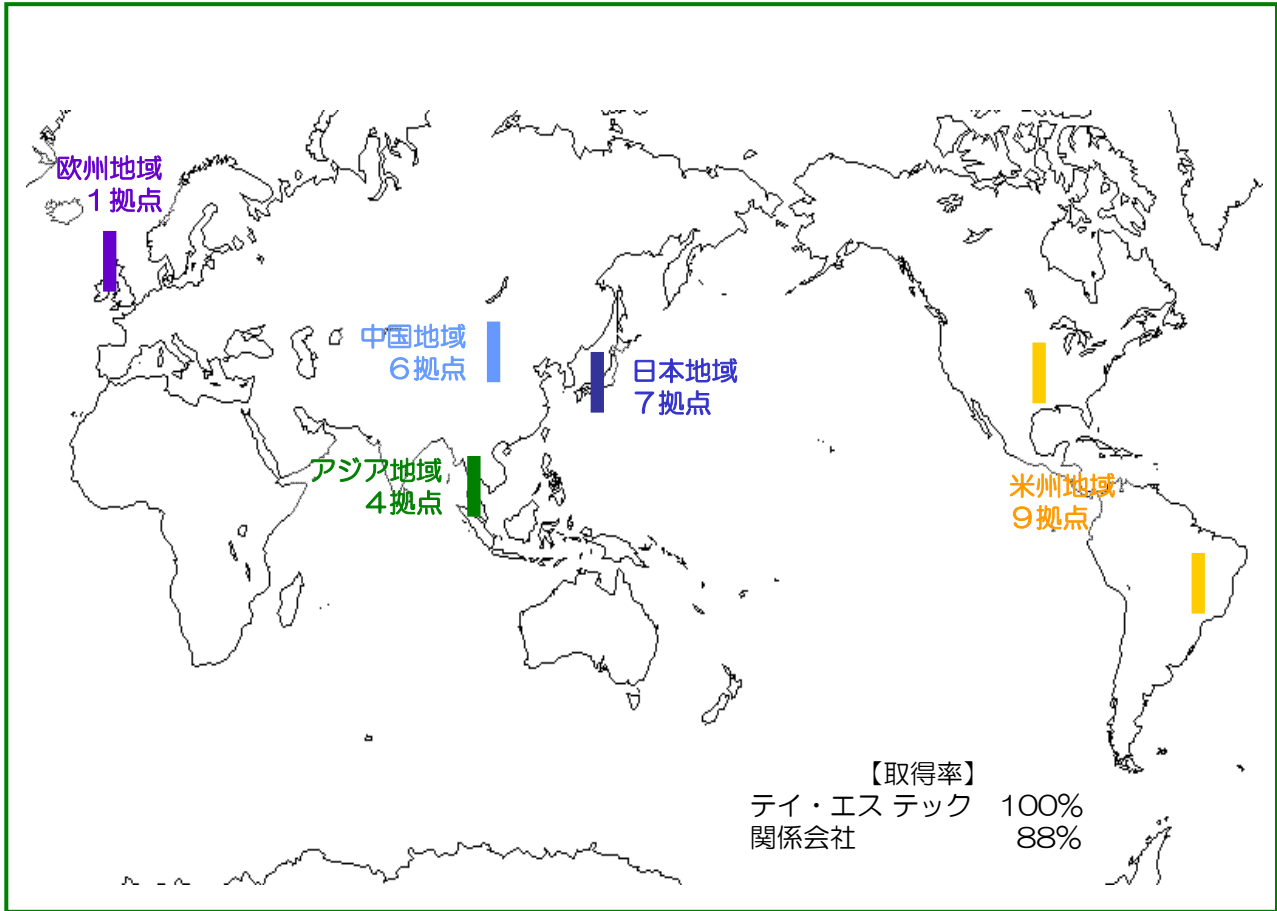
事業活動による環境影響と取組み内容

当社は2020年ビジョンである「Innovative Quality Company」の実現に向け、第11次中期経営計画（2011年～2013年の3カ年）を推進しております。当社は事業活動展開する上で、同時に発生する環境負荷の削減・低減に向け、テイ・エス テックグループとして、さらなる環境保全活動に取り組んでおります。



ISO14001 認証取得状況

世界全地域別 ティ・エス テックグループ事業所認証取得状況



国内主要お取引先様のISO14001 認証取得状況

世界的に環境対応に関する認識が高まる中、主要お取引先様に対し、
 ティ・エス テックはISO14001 認証取得の取組みを奨励してまいりました。
 今後においても、環境負荷低減に向けお取引先様と連携し活動してまいります。

業種	主要取引先	ISO14001取得	業種別 取得比率
材料	52社	34社	65%
加工	73社	34社	47%
部品	89社	61社	69%
合計	214社	129社	60%

年次目標と実績（国内）

2010年度主要環境目標・実績と2011年度目標値

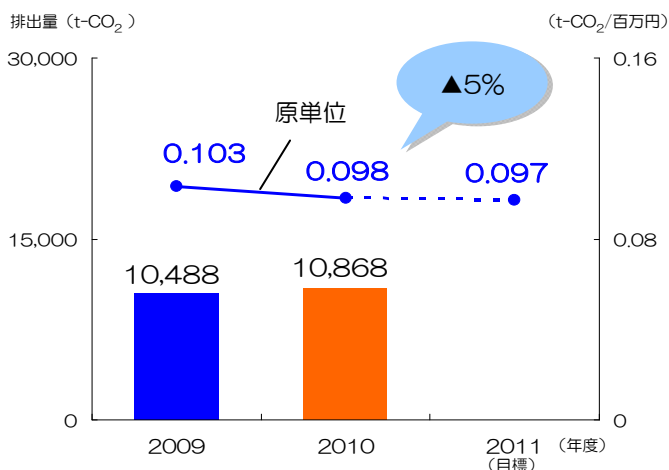
2010年度より各項目において原単位※1目標を設定し、毎年原単位▲1%（前年比）を目標として取り組んでおります。

項目	2010年度目標	施策	2010年度実績	2011年度目標	2011年度施策
CO ₂	CO ₂ 原単位 09年度比 ▲1% (09年度実績： 0.103t-CO ₂ /百万円)	・照明の省エネ化 ・空調の省エネ化 ・生産設備の省エネ化 ・A重油の削減	CO ₂ 原単位 09年度比 ▲5% (10年度実績： 0.098t-CO ₂ /百万円)	CO ₂ 原単位 10年度比 ▲1%	・夏季節電対策 ・生産設備の省エネ化 ・照明、空調省エネ化
廃棄物	廃棄物原単位 09年度比 ▲1% (09年度実績： 0.0122t/百万円)	・廃プラスチック等の リサイクル ・製品不良率の低減	廃棄物原単位 09年度比 ▲1% (10年度実績： 0.0120t/百万円)	廃棄物原単位 10年度比 ▲1%	・リサイクルの推進 ・製品不良率の低減
水	水資源原単位 09年度比 ▲1% (09年度実績： 1.827m ³ /百万円)	・節水活動の実施 (バルブを絞る等) ・水供給設備修繕	水資源原単位 09年度比 ▲5% (10年度実績： 1.729m ³ /百万円)	水資源原単位 10年度比 ▲1%	・全事業所による節水 ・水供給設備漏洩点検

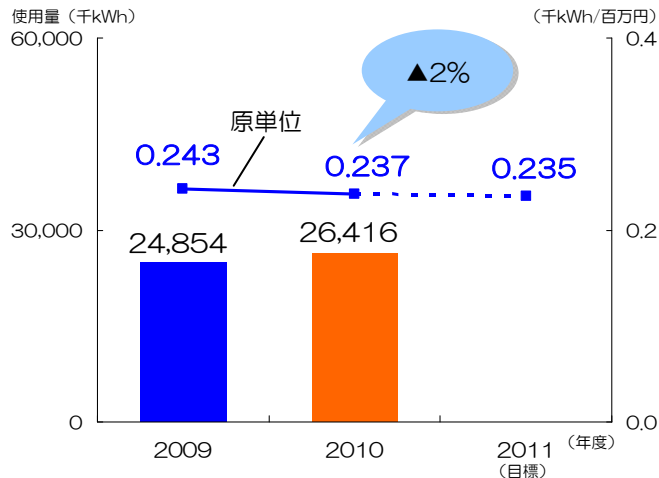
※1 原単位（当社基準）：事業活動による生産（売上額）に対するCO₂排出量、他、原単位として表わしています。

環境項目別実績推移

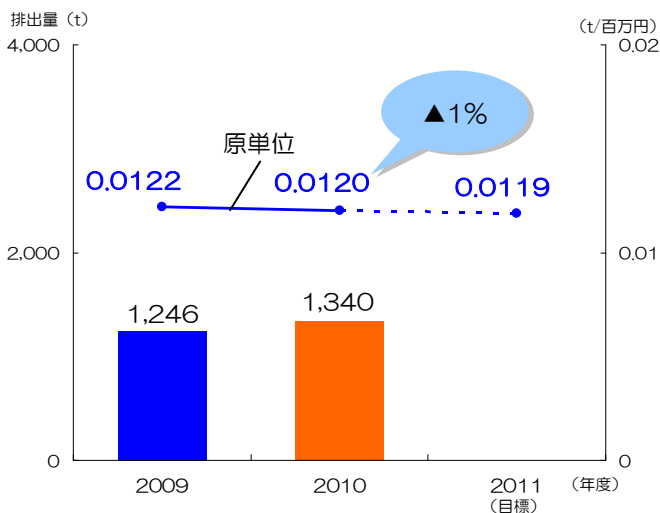
CO₂総排出量



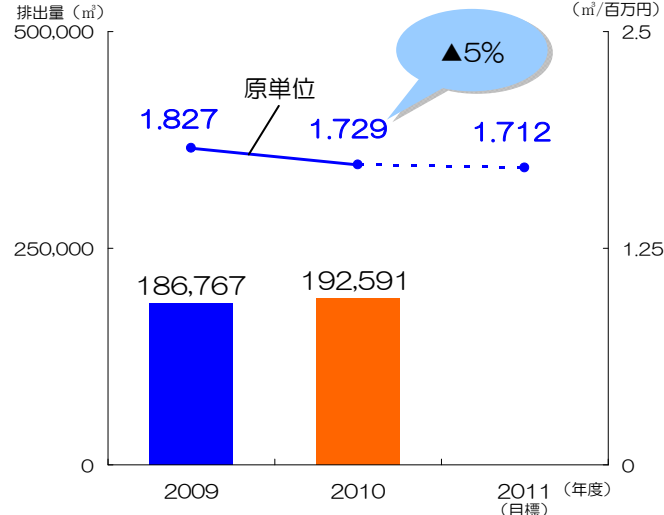
電力使用量



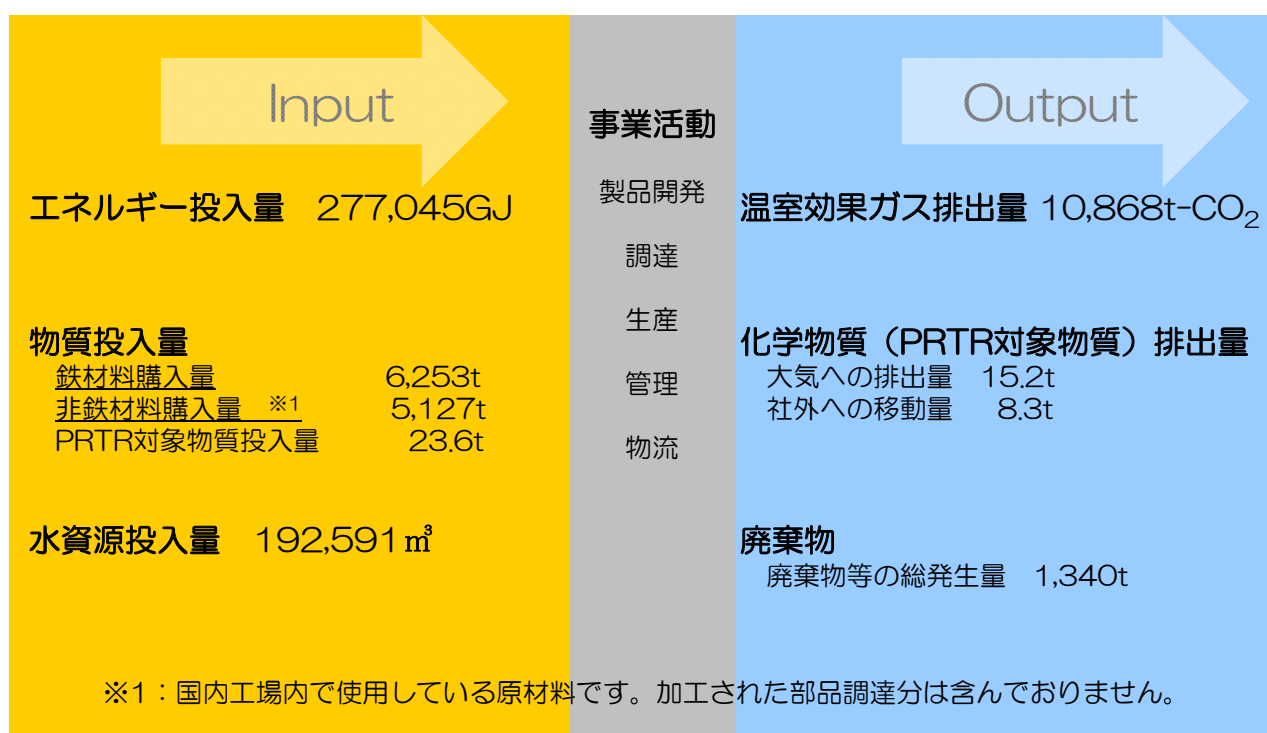
廃棄物総排出量



水総使用量



マテリアルフロー



環境会計

(単位：百万円)

分類	主な取組みの内容	2010年		2009年	
		投資額	費用額	投資額	費用額
(1)事業エリア内コスト	公害防止	35	21	17	28
	地球環境	86	48	82	44
	資源循環	—	48	4	56
(2)上・下流コスト	環境負荷の少ない製品、原材料の購入に伴い発生した費用	—	1	—	1
(3)管理活動コスト	環境マネジメントシステムの整備・運用コスト、環境測定費用、事業所内緑化・整備費用	15	78	3	75
(4)研究開発コスト	VOC削減（脱塗装）、製品の軽量化、リサイクル可能材料開発等の環境影響度が高い新技術の研究開発	—	86	—	145
(5)社会活動コスト	自然保護、緑化、景観保持等の環境対策	—	2	—	1
(6)環境損傷対応コスト	土壌汚染の修復等	—	—	—	—
合計		136	284	106	350

1) 集計範囲は以下のとおりです。

・集計対象会社：テイ・エス テック 国内5事業所

・集計期間：2010年4月1日～2011年3月31日

2) 上記の数値は、按分等の推計により把握した部分を含みます。

3) 集計表の作成にあたっては、環境省より公表されているガイドライン、ガイドブックなどの環境会計に関する資料を参考にしました。

4) 費用には、減価償却費は含みません。

5) 効果については、本報告書で公表している具体的取組み実績をご参照ください。

環境マネジメント

ISO14001 認証

・ 認証審査（外部審査）

2011年2月、認証されたマネジメントシステムの継続的な適合性及び有効性の確認を目的とし、第三者認証監査（継続審査）を受け、3件の観察事項の指摘がありました。全て是正対応を完了し、認証継続をしております。



外部審査の様子

・ 内部監査

2010年8月から12月の約5ヶ月にわたり、社内における事業所間の内部監査や、事業所内における部門間の内部監査を実施しました。



内部監査の様子

社内環境教育の実施

・ 新入社員入社時研修

2010年4月、新入社員に対し、社会人としての環境に対する心構えやISO14001活動の基礎教育をゴミ分別等参加型教育で実施しました。

・ 基幹職研修

2010年7月及び8月の2回にわたり基幹職社員に対し、中堅社員としての環境知識・意識の向上のための環境教育を実施しました。



基幹職研修の様子

・ 新任管理職研修

2010年4月、新任管理職に対し、職制としての環境活動に対する考え方や職場環境活動の向上に向けた環境教育を実施しました。

・ 内部監査員教育

環境マネジメントシステム活動の向上を目的に、各事業所において、内部監査員教育を実施しました。



内部監査教育の様子

環境マネジメント

外部講習会等への参加

・ 地域自治体主催「環境講座」への参加

2010年6月に開催された自治体主催の環境講座にて、朝霞浄水場（東京都水道局）や、東京電力横浜火力発電所の見学など、地域環境セミナー等に参加しました。



東京電力火力発電所の見学

2010年8月に自治体主催により開催された新三郷浄水場（埼玉県企業局）への見学会へ参加し、水処理の方法について学び、水の大切さについて再認識しました。



新三郷浄水場の見学

2010年9月、自治体に協力を依頼し、ISO14001推進メンバーで朝霞市クリーンセンター（廃棄物中間処理施設）を見学し、廃棄物処理について学びました。



クリーンセンターの見学

地域NPOへの参加（本社）

2010年度に地域NPO団体である「朝霞環境市民会議（埼玉県）」主催の市内の里山保全活動に参加し、里山活動の体験学習をおこないました。



里山保全活動の様子

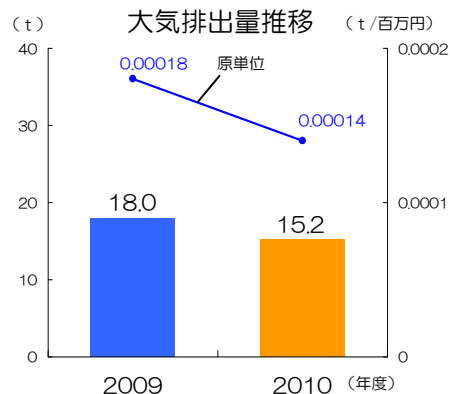
環境リスクマネジメント

化学物質（PRTR法）

PRTR法※1に基づき、1回/年、化学物質の大気排出量等を報告しており、問題の発生はありません。2010年度PRTR物質排出量原単位は22%減（2009年度比）となりました。

2010年度PRTR対象物質実績

	埼玉工場 (行田)	浜松工場	鈴鹿工場
取扱量 (t)	10.3	9.2	4.1
大気排出量 (t)	4.4	9.2	1.6
移動量 (t)	5.9	0.0	2.4



※1.有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計し、公表する仕組み。

PCB（ポリ塩化ビフェニル）廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法

各事業所には、使用済みとなった受電設備（トランス・コンデンサ）に含まれているPCB※2を廃棄処理のため、右記の表のとおり保管をしております。また、2010年度は鈴鹿工場にて保管していたPCBを、国の定める処理方法にしたがい廃棄処理をしました。今後も継続して安全な保管管理の徹底を実施していきます。

PCB保管状況

事業所	重量(kg)
本社地区	514
栃木地区	1,755
埼玉工場	2,479
鈴鹿工場	2,315
浜松工場	116
計	7,179

※2.毒性が強く、発癌性があり、皮膚や内臓の障害を起こす可能性があると言われていた。

水質汚濁防止法・下水道法

各事業所から公共用水域に排出される水の排出及び地下に浸水する排水の定期的な観測を実施し、排水基準を遵守していることを確認しております。

項目	単位	本社地区※		栃木地区		埼玉工場				浜松工場		鈴鹿工場	
		規制値	実績	規制値	実績	(行田)		(狭山)※		規制値	実績	規制値	実績
						規制値	実績	規制値	実績				
水素イオン濃度	PH	5.0~9.0	8.8	6.0~8.4	7.7	5.8~8.6	7.9	5.0~9.0	7.7	5.8~8.6	8.1	5.8~8.6	7.0
生物化学的酸素要求量 (BOD)	mg/l	(600)	294	10	9.6	25	6.1	(600)	46	160	47	25	7.4
浮遊物質 (SS)	mg/l	(600)	323	25	10	60	5.0	(600)	30	200	14	90	15

※規制値は一部自主規制値です。

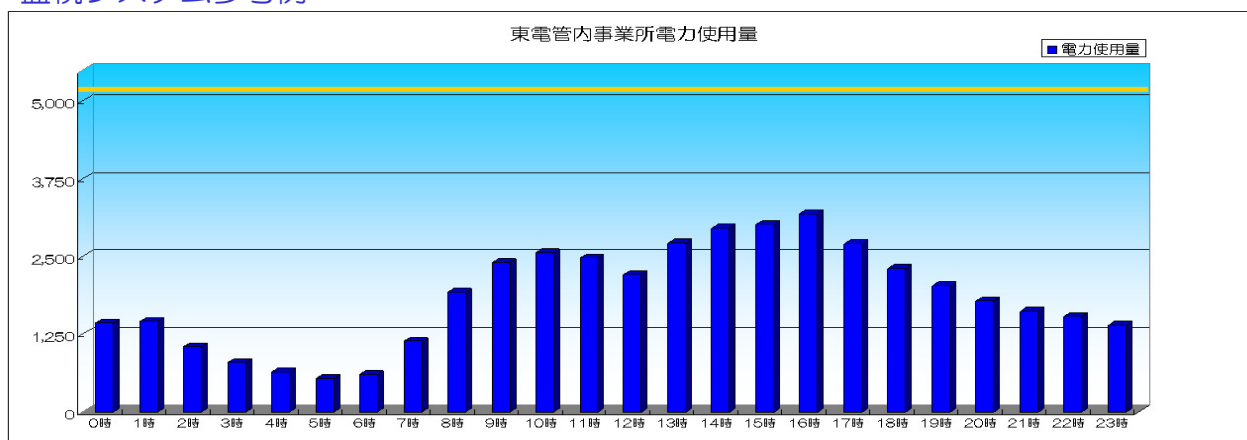
東日本大震災関連（夏季節電対応）

2011年3月11日に発生しました東日本大地震は、東日本全体に未曾有の災害をもたらす大災害となりました。当社においては被災者救済や被災地の復興などの支援活動をおこなうとともに、原発事故に端を発する【夏季の電力削減】への対応をおこないましたので、その対応状況のご報告をさせていただきます。

【電力使用制限令】の対応

東京電力管内での【電力使用制限令】への対応については、自動車業界と連携した輪番操業（木・金＝休業）をおこないました。また、電力使用量▲15%を目標に全事業所において節電対策に取組みました。さらには、全事業所の電力使用状況を常時管理することにより、電力使用状況の把握に努めました。

監視システム参考例



東京電力管内対象事業所の電力監視（7月～9月）

主な節電対策（ピーク電力使用量/hの削減）

全社対応（国内）

- ・輪番操業（木・金＝休業）を7月～9月に実施
- ・例年以上の社内基準を設定し、全社員に対し夏季節電対応（クールビズ、空調機管理、他）の協力を要請

埼玉工場（3事業所）

- ・集中監視のできる電力監視システムを導入（警報システム、使用量集計管理）
- ・埼玉工場（行田・狭山・川越）の一部生産ラインにおいて時差操業を実施

栃木技術センター

- ・集中監視のできる電力監視システムを導入（警報システム、使用量集計管理）
- ・自家発電機を導入し、東京電力使用量の削減

本社

- ・東京電力管内事業拠点電力最大使用量・率（制限値/実績）をHP上にて公開



ホームページより

2010年度環境保全活動実績

1) 省エネルギー事例

①省エネ型 照明器具 (E-COOL) の導入 (鈴鹿工場)

鈴鹿工場において140本の蛍光灯を、E-COOLに変えることにより、2,586kWh/年 削減することができました。

対策前：18,102kWh/年
対策後：15,516kWh/年

効果

電力削減量：2,586kWh/年
CO₂削減量：978kg/年



事務所照明 (鈴鹿)

②部品倉庫内水銀灯削減 (埼玉工場)

埼玉工場 (行田) の部品倉庫の照明を、水銀灯9灯から蛍光灯19灯に変えることにより、3,994kWh/年 削減することができました。

対策前：6,912kWh/年
対策後：2,918kWh/年

効果

電力削減量：3,994kWh/年
CO₂削減量：1,510kg/年



部品倉庫照明 (行田)

③川越第4工場 蛍光灯削減 (埼玉工場)

埼玉工場 (川越) の第4工場における蛍光灯を350本から251本に99本削減することにより、7,603kWh/年 削減することができました。

対策前：26,880kWh/年
対策後：19,277kWh/年

効果

電力削減量：7,603kWh/年
CO₂削減量：2,874kg/年



埼玉工場 (川越) 第4工場

2010年度環境保全活動実績

1) 省エネルギー事例

④コンプレッサー稼働方式改善（集中）による電力削減（鈴鹿工場）

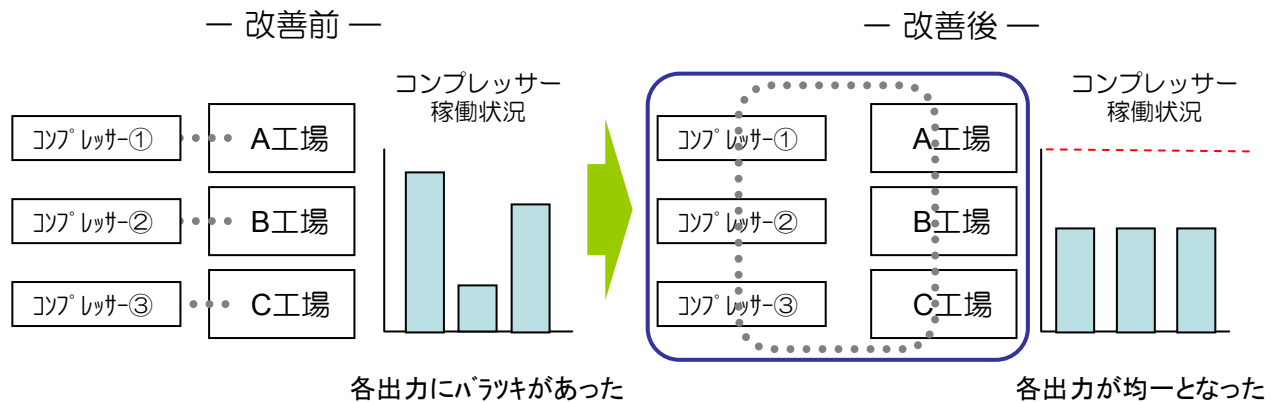
鈴鹿工場において、エアーコンプレッサーの稼働を従来の単機稼働方式から、全てのコンプレッサーをループさせ稼働させることにより、エアー供給ロスの削減を図り、574,590kWh/年の電力を削減することができました。



対策前：1,589,470kWh/年
対策後：1,014,880kWh/年

効果

電力削減量：574,590kWh/年
CO₂削減量：217,195kg/年



⑤電動式大型射出成形機の導入（埼玉工場）

埼玉工場（川越）において、2011年2月に電動式大型射出成形機（1,800t）を導入し、生産効率向上（ハイサイクル）を実施するとともに、従来の油圧式射出成形機に対し、電力使用量の削減、作動油使用量の大幅な削減をおこない、環境負荷低減にも寄与することができました。

・使用電力量/年

対策前：265,004kWh/年
対策後：159,209kWh/年

効果

電力削減量：105,795kWh/年
CO₂削減量：39,991kg/年



電動式1,800t 射出成形機

2010年度環境保全活動実績

1) 省エネルギー事例

⑥発泡成形工程の空調機稼働改善（埼玉工場）

埼玉工場（行田）のステアリング発泡成形工程では、製造品質の維持・向上を目的に、高温多湿時期（6月～9月）に限定し、「温度・湿度」の一定化を図るため、常時、空調機を稼働しておりました。

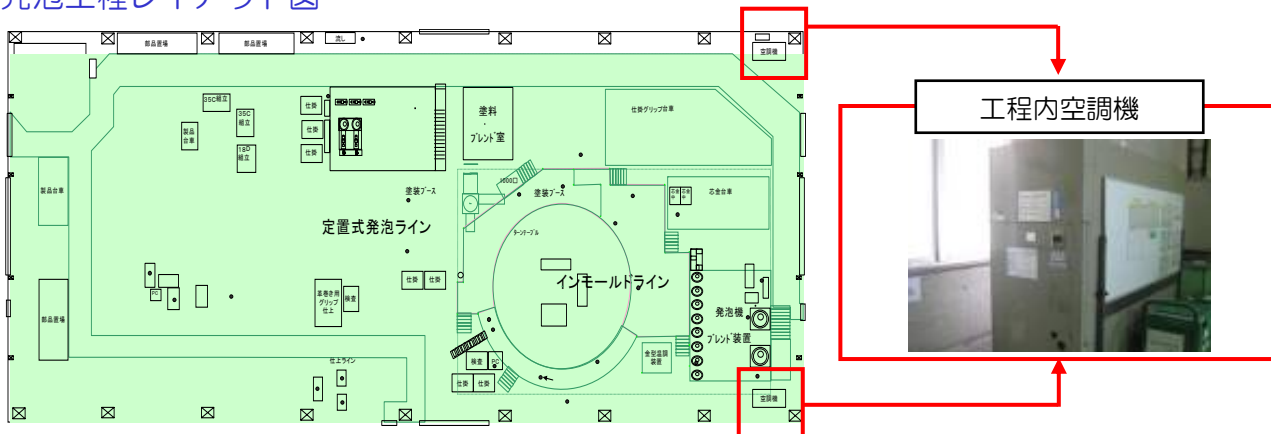
しかし、省エネを目的とした「空調機稼働時間の短縮」を実施するため、休業時・夜間の稼働停止による製品品質への影響を調査した結果、製造品質に影響を与えない空調機稼働管理が可能となり、使用電力の削減を実施することができました。

対策前 67,973kWh/年
対策後 28,325kWh/年

効果

電力削減量：39,648kWh/年
CO₂削減量：14,987kg/年

発泡工程レイアウト図



⑦ヘッドレスト工程ガスボイラーの廃止（埼玉工場）

埼玉工場（行田）のヘッドレスト生産工程で使用しているスチーム（蒸気）は、プロパンガスを燃料としたガスボイラーを使用しておりましたが、CO₂削減を目的にガスボイラーを廃止し、電気式スチームに変更しました。

対策前 プロパンガス 1,879kg/年
対策後 電気スチーム 2,196kWh/年

効果

CO₂削減量：4,807kg/年



プロパンガスボイラー（廃止）

2010年度環境保全活動実績

2) 資源の削減事例

新機種開発シートの軽量化（四輪車）

アクティブヘッドレスト機構付きシート同等の安全性（頸部衝撃緩和性能）を維持しながら、軽量化を実現。材料使用量削減と車の燃費向上に貢献しています。

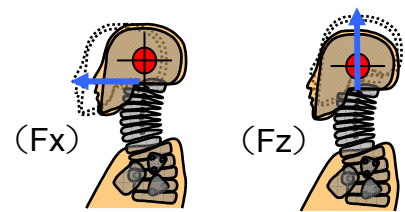
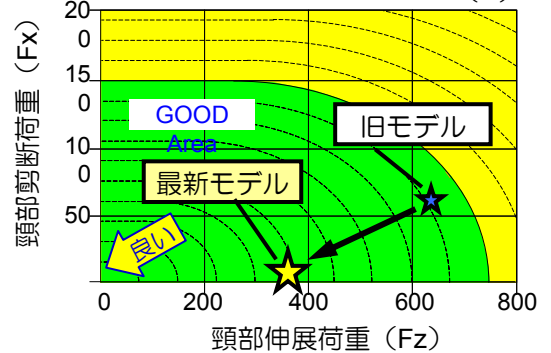


旧モデル（2006年モデル）
アクティブヘッドレスト機構付

最新モデル（2012年モデル）
アクティブヘッドレスト機構レス

重量：約20%削減
車の燃費向上に貢献

IIHS※評価基準にて「Good」を獲得
後面からの追突事故時に発生する乗員頸部にかかる衝撃を緩和

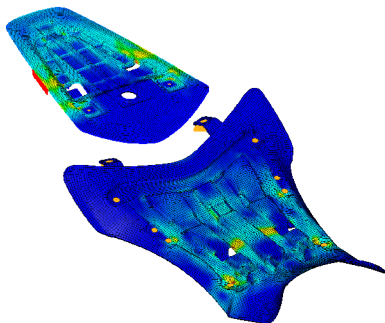


上記グラフ荷重方向

※IIHS：米国道路安全保険協会 (Insurance Institute for Highway Safety)

新機種開発シートの軽量化（二輪車）

シートフレームの応力解析（CAE）



重量：約10%削減
クラス最薄・最軽量シート

二輪車用シートフレームをCAEを駆使して設計することにより、強度と薄肉化を両立しました。また、薄肉化に対応した割れにくい軽量材料を適用し大幅な軽量化を実現しました。



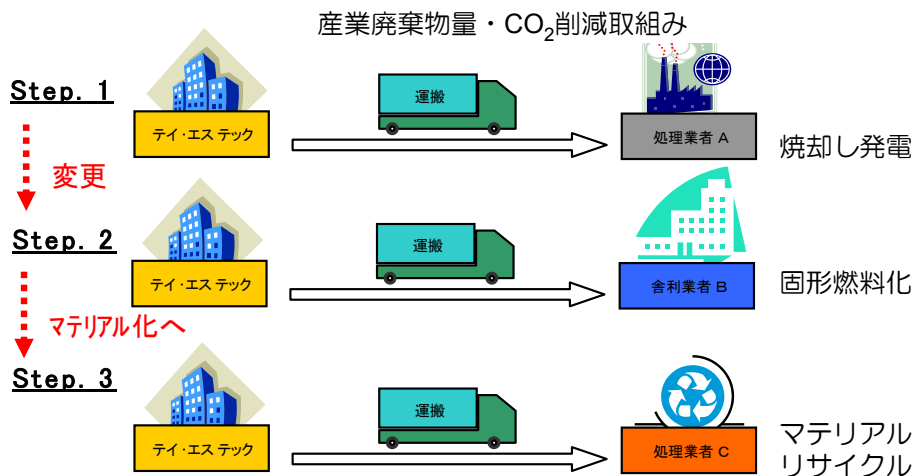
製品外観

2010年度環境保全活動実績

3) 廃棄物削減事例

①マテリアルリサイクルの更なる拡大（鈴鹿工場）

鈴鹿工場において、2010年4月より、マテリアルリサイクルできる廃棄物の品目を、更に拡大することにより、廃棄物を 13,840kg/年 削減することができました。



②ごみ減量推進事業所に認定（鈴鹿工場）

鈴鹿工場において、ゴミ分別マニュアルを日本語とポルトガル語で作成し周知し、ゴミ分別ナビを作成し活用することにより、ゴミ分別の徹底を図りました。
また、食堂の残飯削減活動等の取組みをおこないました。
このような活動が認められ、2011年1月、三重県鈴鹿市の「ごみ減量推進事業所」に認定されました。



③マイカップ運動による紙コップ廃棄量の削減（エンジニアリングセンター）

エンジニアリングセンターにおいて、2009年9月より紙コップの廃棄量削減のためマイカップ運動を開始しました。その結果、紙コップの廃棄量が約52%削減しました。



2010年度環境保全活動実績

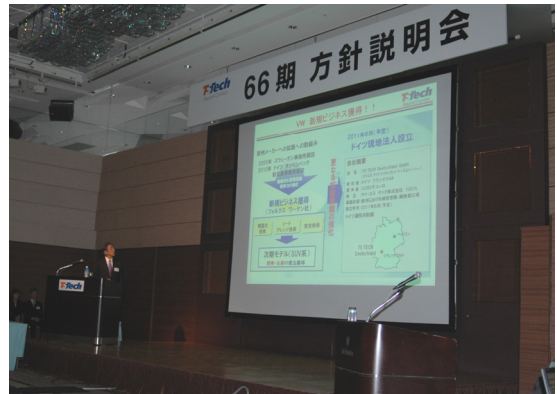
4) 購買（取引先）

①サプライヤーへの取組み

当社は、主要なお取引先様に対して、毎年定期的な購買方針説明会を開催し、「ISO14001認証取得」の推奨や「化学物質管理」（REACH対応など）へのご協力をお願いしております。

2011年度「購買方針説明会」では、新たにお取引先様の「CO₂排出量」調査開始のご案内をし、昨年度の主要加工取引先様を対象に前年度調査を実施いたしました。（下記参照）

現在、当社国内事業所を中心に進めております「CO₂排出量削減活動」の展開を当社主要取引先様も含めた活動展開へこの先拡大をすることにより、テイ・エステックグループとして【環境負荷低減】に取引先様と連携して取り組んでまいります。



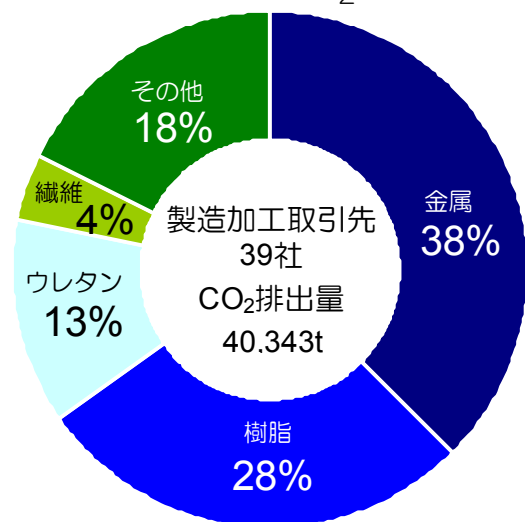
購買方針説明会の様子

②取引先CO₂排出量調査

当社は、主要なお取引先様の中から、製造加工取引先を対象とした2010年度「CO₂排出量」調査をスタートさせました。

（2013年～取引先削減目標設定）

2010年度取引先CO₂排出量調査



製造加工取引先業種別のCO₂排出割合

2010年度環境保全活動実績

5) その他（国内事業所）

①みどりのカーテンと屋上緑化（本社）

室内温度の上昇を抑えることを目的として、2010年6月、本社地区において、西日の当たる一角に「みどりのカーテン」活動を実施しました。

また、2009年11月に開始した屋上緑化活動にも取り組んでおります。



屋上緑化の多肉植物



みどりのカーテン

②構内緑化工事（本社）

2010年9月より、本社地区内駐車場の緑化工事を実施しました。緑化面積は約2倍となり、大小約100本の樹木を増やしました。



緑化前：2010年8月



緑化後：2011年7月

③エコキャップ運動（全社）

エコキャップ運動は、全社取組みを始めて2年目となりました。鈴鹿工場では、自社が回収したペットボトルキャップをリサイクル業者へ運搬する際、近隣小学校にも立ち寄り、小学校で集めたペットボトルキャップも一緒に、リサイクル業者へ届けています。



近隣小学校で集められたエコキャップ

	回収総個数	CO2削減量	廃棄物の削減量	寄付したポリオワクチン
2009年度	158,565個	約1,249kg	約396kg	約198人分
2010年度	244,695個	約1,927kg	約612kg	約306人分

2010年度環境保全活動実績

5) その他（海外関係会社）

④太陽光発電システム及び風力発電システムの導入（TS TECH (THAILAND)）

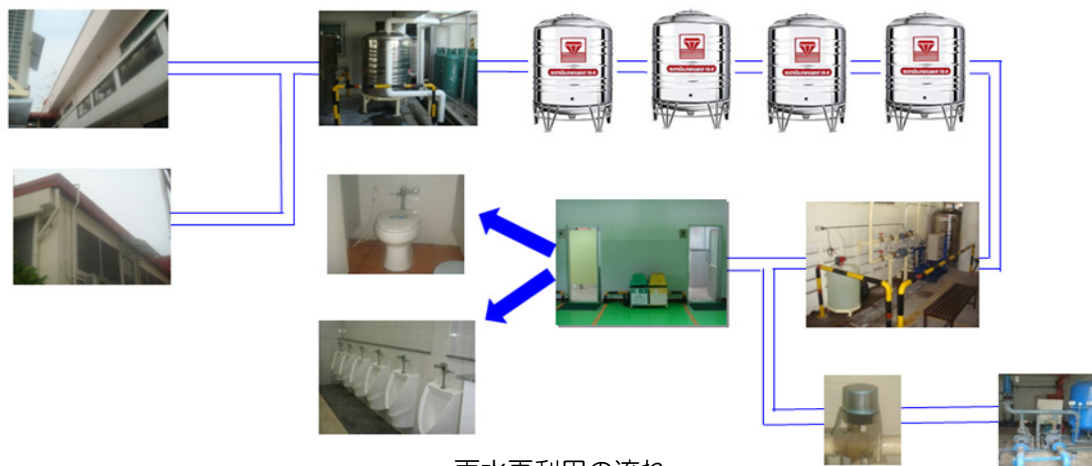
第1工場において、2010年5月に、太陽光発電システム及び風力発電施設を導入しました。2010年5月から2011年4月の1年間の発電量は386kWhでした。



タイ第1工場屋上に設置された風力発電施設

⑤雨水の再利用（TS TECH (THAILAND)）

第1工場において、2010年5月に、雨水を再利用するために雨水槽を設置しました。2010年5月から2011年4月の1年間に、水道使用量を1,470m³削減しました。



雨水再利用の流れ

⑥植樹等ボランティア活動（TS TECH DO BRASIL LTDA.）

2010年度からは、社員のボランティアグループにより結成したVIDAプロジェクト（ポルトガル語で「命」）にて、環境活動を推進しています。2010年3月には、レーメ市の小学校で「畑作り」と子供たちとの交流会をおこないました。その他、通勤路のロータリーの草を整地し、花の苗などを植えました。



子供たちと畑作業をする様子



ロータリーに植樹する様子

2010年度環境保全活動実績

5) その他（海外関係会社）

⑥INDUSTRIAS TRI-CON DE MEXICO, S.A. DE C.V.

2010年5月、マタモロス工場主催で事業所環境改善として「工場周辺への植樹活動」を実施しました。工場の社員が参加し、40本の樹木を植えました。



メキシコの植樹活動

2010年6月に「子供向け環境教育コンテスト」をヌエボ・ラレド工場主催で開催しました。地球環境問題の意識向上及び知識の習得を目的とした「環境お絵描きコンテスト」などを実施し、工場の社員とその家族が参加しました。



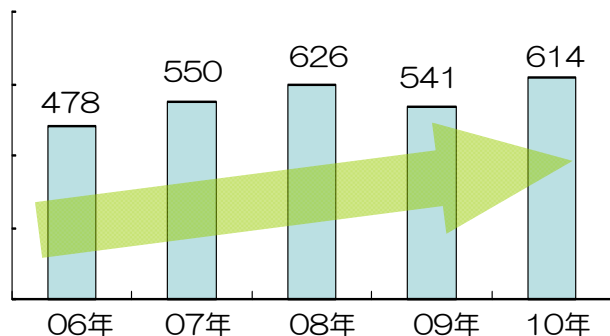
メキシコの環境教育コンテスト

⑦QC活動（TCサークル）

当社の品質を支える人材育成の一環としてQCサークル活動を国内・海外の各拠点で展開しており、品質改善・効率改善の手法を当活動を通じて習熟し、生産品質の向上・効率改善に貢献しています。

国内・外の活動サークル数も年を重ねるごとに増加し、2010年度は11ヶ国29拠点で614サークルに達し、活発な品質改善・効率改善活動を各拠点で展開しています。

参加サークル数推移



TCサークル中国大会

社会貢献活動（国内事業所）

①近隣地域の清掃活動（各事業所）

各事業所において、近隣地域の清掃活動を実施しています。



鈴鹿工場近隣の清掃活動



埼玉工場近隣の清掃活動

②クリーニング軍手の寄贈（浜松工場）

浜松工場では、2008年度より、工場内で使用してクリーニングした軍手の中から小さくなってしまった軍手を、近隣小学校へ寄付しています。2008年度は1校でしたが、地域情報交流の中で2011年6月までに3校に増えました。



2011年5月
浜松市立鏡山小学校へ寄贈



2011年6月
浜松市立犬居小学校へ寄贈
※地元新聞に掲載されました。

③工場見学会開催（各事業所）

毎年、各事業所において、工場見学会を開催しています。

- 2010年 6月 四日市工業高校自動車科（鈴鹿工場）
- 2010年10月 郡山小学校（鈴鹿工場）
- 2011年 2月 川越工業高校（埼玉工場）



四日市工業高校



郡山小学校



川越工業高校

社会貢献活動（国内事業所・海外関係会社）

④ テイ・エス テック杯の開催（鈴鹿工場）

2010年11月「テイ・エス テック杯第23回鈴鹿市少年学童野球大会 新人戦」が開催されました。全23チームが優勝を目指し、選手たちは元気いっぱい熱い試合を繰り広げました。



テイ・エス テック杯開会式の様子

⑤ 小・中学生バスケットボール大会の開催（埼玉工場）

埼玉工場はバスケットボールクラブを擁し、全国実業団大会や地元大会に参加しております。地域支援の一環として地域の学童、中学校によるバスケットボール大会を開催いたしました。

2010年12月
小学生（女子）24チームによるテイ・エス テック杯
クリスマスミニバスケットボール大会

2011年1月
中学生16チームによるテイ・エス テック杯中学生
バスケットボール大会



ミニバスケットボール大会で優勝した
行田西ミニバスチームの皆さん

⑥ 文房具の配布（PT.TS TECH INDONESIA）

テイエス テック インドネシアでは、2010年2月、在籍している工業団地の近隣小学校において、子供たちにノートや鉛筆の贈呈をしました。



インドネシアの小学生へ文房具を配布

⑦ 事務用備品の寄贈（PT.TS TECH INDONESIA）

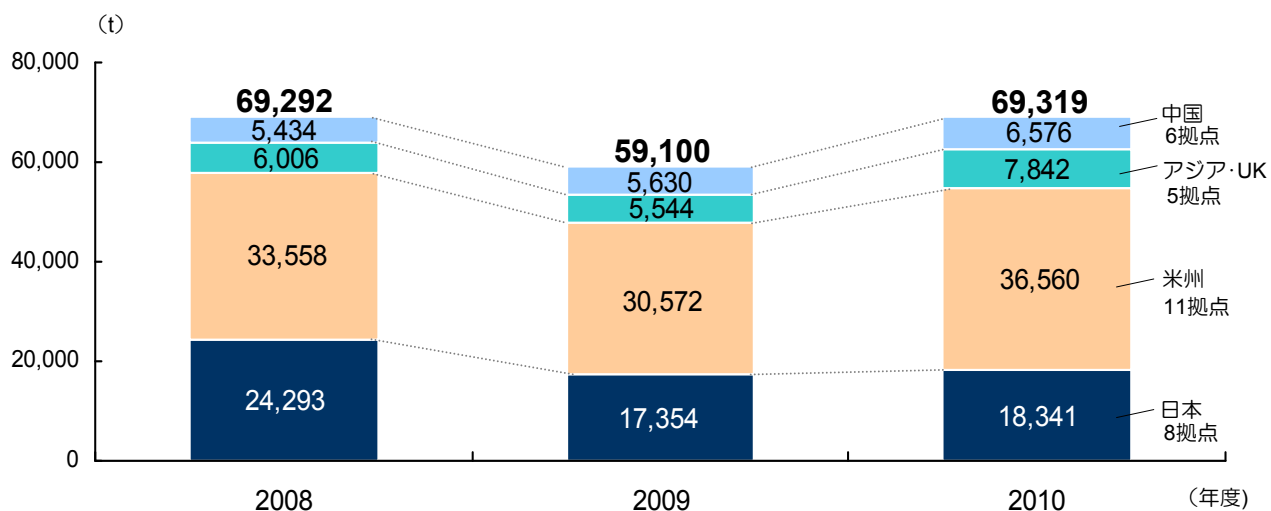
2010年5月、工場がある工業団地周辺の村や学校を訪問し、集会所や学校で使用する机や椅子を寄贈しました。



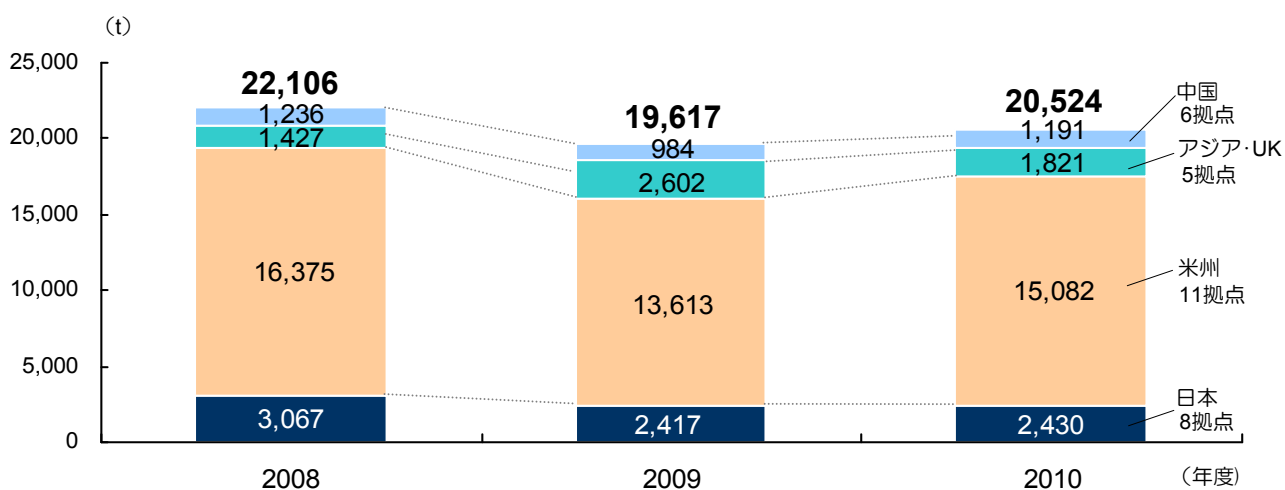
インドネシアの学校へ備品を寄贈

テイ・エス テック及び関係会社の環境データ

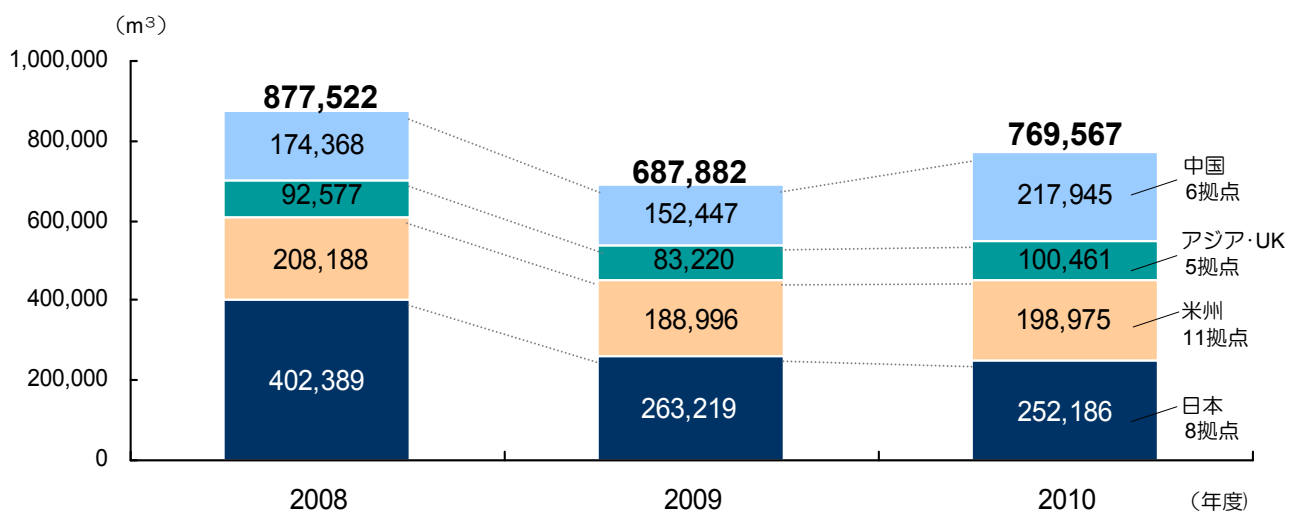
CO₂排出量



廃棄物総排出量



水総使用量



2010年度国内関係会社別環境データ

国内関係会社

九州テイ・エス株式会社

●本社所在地：熊本県菊池市赤星1890番地

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	10,661,785
ガソリン	kL	31
軽油	kL	0

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	518

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	48,262

サン化学工業株式会社

●本社所在地：静岡県浜松市北区新都田4丁目4番6号

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	1,830,564
ガソリン	kL	5
軽油	kL	0

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	146

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	4,219

総和産業株式会社

●本社所在地：千葉県千葉市中央区中央3丁目9-16 三井生命千葉中央ビル4F

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	5,095,753
ガソリン	kL	48
軽油	kL	6

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	425

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	7,114

2010年度海外関係会社別環境データ

米 州

TRI-CON INDUSTRIES,LTD. (アメリカ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	6,975,520

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	3,657

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	8,169

TS TRIM INDUSTRIES INC. (アメリカ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	27,397,372

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	2,976

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	2,567

TS TECH USA CORPORATION (アメリカ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	9,782,360

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	3,351

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	9,197

TS TECH NORTH AMERICA,INC. (アメリカ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	2,949,200

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	118

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	53,403

TS TECH ALABAMA, LLC. (アメリカ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	7,312,143

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	937

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	8,023

TriMold LLC (アメリカ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	8,964,647

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	601

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	79,505

TS TECH INDIANA,LLC (アメリカ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	2,872,209

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	197

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	1,359

TS TECH CANADA INC. (カナダ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	2,293,233

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	237

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	2,187

2010年度海外関係会社別環境データ

米 州

TRIMONT MFG.INC. (カナダ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	4,358,826

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	410

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	6,679

INDUSTRIAS TRI-CON DE MEXCO,S.A. DE C.V.

■エネルギー

(メキシコ)

項目	単位	使用量
電力	kWh	6,714,880

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	1,551

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	14,989

TS TECH DO BRASIL LTDA. (ブラジル)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	2,538,074

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	1,047

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	12,896

中 国

広州提愛思汽車内飾系統有限公司 (中国)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	5,491,260

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	115

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	135,850

広州德愛康紡績内飾製品有限公司 (中国)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	796,932

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	175

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	8,670

寧波保税区提愛思泉盟汽車内飾有限公司

■エネルギー

(中国)

項目	単位	使用量
電力	kWh	783,775

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	191

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	5,322

寧波出口加工区提愛思泉盟汽車内飾有限公司

■エネルギー

(中国)

項目	単位	使用量
電力	kWh	1,670,236

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	286

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	8,083

2010年度海外関係会社別環境データ

中国

武漢提愛思全興汽車零部件有限公司

■エネルギー (中国)

項目	単位	使用量
電力	kWh	3,359,263

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	389

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	37,620

広州広愛興汽車零部件有限公司 (中国)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	2,945,500

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	35

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	22,400

アジア

TS TECH TRIM PHILIPPINES, INC. (フィリピン)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	1,169,000

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	259

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	16,336

PT. TS TECH INDONESIA (インドネシア)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	2,208,550

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	393

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	21,047

TS TECH (THAILAND) CO., LTD. (タイ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	5,655,026

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	675

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	31,996

TS TECH SUN (INDIA) LIMITED (インド)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	1,598,516

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	182

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	21,686

欧州

TS TECH UK LTD. (イギリス)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	kWh	3,890,134

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	312

■水

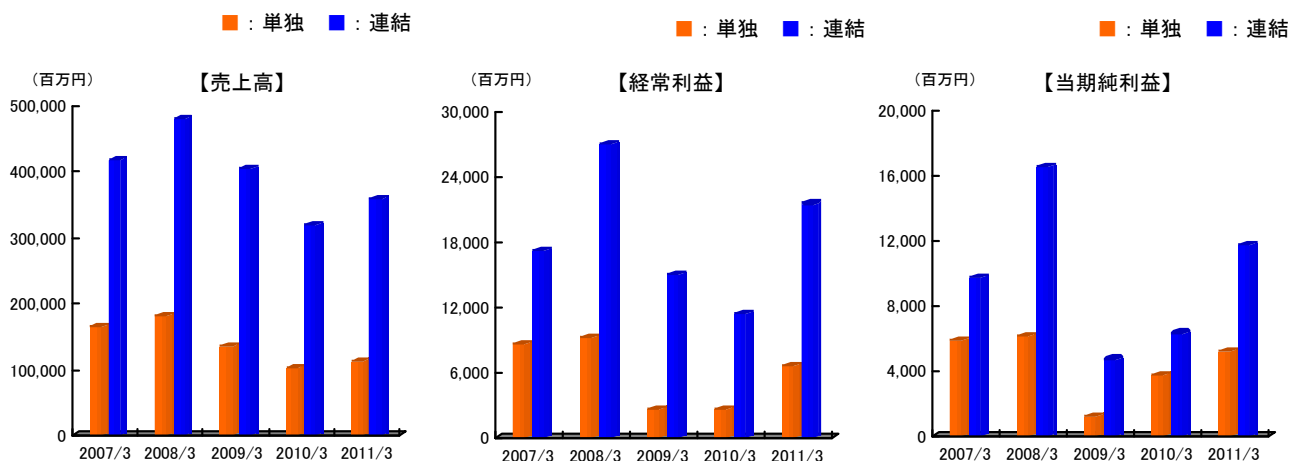
項目	単位	使用量
使用量	m ³	9,396

会社概要

商号 テイ・エス テック株式会社（英文名：TS TECH CO.,LTD.）
設立 1960年12月5日
本社 〒351-0012 埼玉県朝霞市栄町3丁目7番27号
資本金 4,700百万円
売上高 単独 111,389百万円 連結 357,489百万円
主な事業内容 四輪車用シート、四輪車用内装品、二輪車用シート、
二輪車用樹脂部品等の製造販売
従業員数 単独 1,711名 連結 13,033名（2011年3月31日現在）
主な取引先 本田技研工業(株)、(株)本田技術研究所、(株)ホンダトレーディング、
(株)ホンダアクセス、スズキ(株)、ヤマハ発動機(株)、川崎重工業(株)、
富士重工業(株)、いすゞ自動車(株)

業績

（2011年3月期）



後記

当社4回目となる『環境報告書2011』を発行いたしました。
 今回発行いたしました報告書では2010年度、国内事業所（関係会社を含む）、
 海外関係会社の環境活動実績のデータと活動事例の一部を紹介いたしております。
 今年は「東日本大震災」の発生により、当社においても生産業務をはじめ様々な
 観点での企業責任としての緊急対応が求められました。
 今後の当社「CSR活動」の更なる努力が必要であると再認識をしています。
 このような一連の情報発信を通じてより多くの皆様に、当社の企業責任としての
 考え方や環境・社会貢献活動取組みについて、知っていただければ幸いです。

掲載内容に対するご質問等は下記にて承ります
 テイ・エス テック株式会社
 管理本部 CSR部 環境課 TEL . 048-462-1128
 FAX. 048-465-0403

2011年9月28日
 テイ・エス テック株式会社
 環境報告書編集委員会
 管理本部 CSR部 環境課